

飯田市立旭ヶ丘中学校 開催要項

研究テーマ

話すこと〔発表〕の力を高める複線型授業の在り方

1 期 日 令和7年11月7日（金）

2 会 場 飯田市立旭ヶ丘中学校

3 共同研究者 国立教育政策研究所 学力調査官 佐藤 大樹 先生

4 日 程

(1) 受 付（昇降口） 13：00～13：20

(2) 授業公開（第1集会室） 13：30～14：20

① 授業学級・授業者 2年2組・都筑 彩花

② 単元名 「旭ヶ丘中学校に取り入れたいユニバーサルデザインについて、
まとまりのある英語で話そう」

(3) 開会行事（第1集会室） 14：35～14：45

① 主催者挨拶 信濃教育会研究調査部長 清水 秀明

② 諸連絡

(4) リフレクションとワークショップ（第1集会室） 14：45～16：20

① 研究発表

② 授業者によるリフレクション

③ 参観者によるリフレクション

④ 共同研究者より

(5) 閉会行事（第1集会室） 16：20～16：30

① 会場校校長挨拶 飯田市立旭ヶ丘中学校長 大澤 忠史

② 諸連絡

5 連絡

(1) 湯茶等の飲み物、上履きをご持参ください。

(2) 駐車場は体育館周辺及び前庭をご利用ください。

飯田市立旭ヶ丘中学校
担当 下平 浩之（教頭）
電話 0265-25-2027
Mail asahijh@ed.iidanet.jp

飯田市立旭ヶ丘中学校への交通案内

お車でお越しの方は下記の地図を参考にし、お出かけください。

經路

- ・中央道下り線をご利用の方は、飯田インターで降りてください。
- ・中央道上り線をご利用の方は、飯田山本インターで降りてください。
- ・飯田インター及び飯田山本インターからは約5分で到着いたします。



お気をつけてお越しく下さい。お待ちしております。

学び創造研究会 学習指導案(英語)

会 場 校：飯田市立旭ヶ丘中学校

授 業 学 級：2年2組

授 業 者：都筑彩花

単 元 名：「旭ヶ丘中学校に取り入れたいユニバーサルデザインについて、まとまりのある英語で話そう」

共同研究者：国立教育政策研究所 学力調査官 佐藤大樹 先生

1 研究テーマ

話すこと〔発表〕の力を高める複線型授業の在り方

2 研究テーマ設定の理由

これまでの話すこと〔発表〕の授業では、①コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定する、②自分の考えを整理する、③友と考えを伝え合う、④全体で共有する、⑤再度友と考えを伝え合う、など、教師が全体の流れを決めて指導してきた。しかし、ある授業で、生徒から、「何と英語で言ったらよいか分からない」「もっと自分の考えを整理する時間がほしい」「もっと練習する時間がほしい」などの振り返りがあり、全体で一斉に授業を行うだけでは、生徒に力をつけていく難しさを感じた。

そこで、生徒それぞれの要望にゆだねてみようと思い、目標を達成するために必要だと思うことをそれぞれ自分で考えてみるようにした。すると、これまでの学習経験を基に、繰り返し友と発表し合う生徒もいれば、話す内容を書き出してまとめてから話す生徒、教科書の英文を振り返って活用しようとする生徒などの姿が見られた。この姿から、同じ目標に向かう中でも、生徒一人一人が感じている必要な学び方が多様であることに気付いた。私はこれまで生徒の学びを単線で捉えていたが、生徒一人一人の学びの一つ一つを複数の線として捉え、話すこと〔発表〕の単元や授業を「複線型授業」として構想していこうと考えた。上記のような生徒の姿は偶然見られたものであるので、単元を計画的に構想し、さらに生徒の話すこと〔発表〕における資質・能力の育成を目指し、本研究テーマを設定した。

3 本単元における手立て

(1)「Speech Points」を共有する。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて話すために、本単元では考えの視点として「Speech Points」(図1)を共有する。例えば、「Speech Points」には、「理由」「できること」「経験」「仮定する」「考え・気持ち」「質問する」などがある。これらの視点は、教師から提示するのではなく、教科書の文章を読み取る際に、それぞれの文章を読んだり、対話文を聞いたりする中で生徒が自ら気付いていけるようにする。生徒は、教科書から読み取った視点「Speech Points」を基にして、コミュニケーションを行う目的に応じるために、自身のスピーチを見直したり、自身の課題を見出したりする。単元を進めていく中で、生徒の発表から教科書にはない考えの視点が見られた場合には、それらも「Speech Points」として共有していくようにする。視点を共有する際には、考え方だけではなく、英語でどのように表現しているかも一緒に取り上げ、内容面と言語面の両面からの充実を図る。「Speech Points」は単元を通して黒板に提示しておくことで、生徒が常に意識をしながら取り組めるようにする。「Speech Points」を使うことが目的ではなく、コミュニケーションを行う目的に応じるために、自分が必要だと思った「Speech Points」を基に考えていくようにする。1つの「Speech Points」だけではなく、複数の「Speech Points」を組み合わせたり、新たな考えの視点も考えたりしていくことで単元の目標の達成に向かっていくようにする。

Speech Points	
理 由	
できること	
経 験	
仮定する	
考え・気持ち	
質問する	

図1 「Speech Points」

(2) 自己課題と学び方を自覚できるようにする。

単元の目標や本時の目標に向けて、生徒が自分の学び方を考えるには、自分の課題を明確にする必要がある。そこで、本単元では、毎時間の授業の終末に、1時間の中でできるようになったことや難しかったこと、これから取り組んでいきたいことなどを振り返る時間

をとる(図2①)。さらに、次の授業の導入では、前時の振り返りを生かし、その時間の自己課題をスプレッドシートに書くようにする(図2②)。スプレッドシートに記入をすることで、生徒は友の自己課題も参照することができるため、自己課題を更新していくことにもつながる。自己課題が明確になることで、自分にとって必要なことが明確になるため、自分なりの学び方を選択することができるのだと考える。そして、設定した自己課題を達成するためには、どのような学び方をしたらよいのかを考える場を設け、同じスプレッドシートに記入する場を設ける(図2③)。話すこと[発表]では、以前の単元でも行ったので、その時に経験した学習方法を選択したり、友の学習を参考にしたりして、学習方法を選択していただくろう。

Unit Goal : いユニバーサルデザインについて、聞いている人が共感してくれるようなスピーチをしよう	
Today's Goal : Sign is good for Asahigaoka JHS?"	
	今日の自分の課題「こんな内容を伝えたい」
	なんで必要なのかやどんな人が使うのかなど具体的なスピーチをしたい
10	英文・メモを作る→友達と練習→発音確認
11	どんな人が使えて、便利だと思ってもらえるのかを伝える。
12	理由をつけ、自分の経験なども入れてわかりやすく話す
13	なぜあると良いのかと、もしもこうだったらということを伝えたい。
14	理由を入れる
15	詳しい理由をつける

図2 「スプレッドシートを活用し、自己課題、学び方、授業の振り返りを記入する」

(3) クラウドを活用し、他者参照ができるようにする

本単元では、まとまりのある内容を話すために、自分の考えを、キーワードや矢印などのメモに整理していくようにする。ワークシートなどにメモを書くことも考えられるが、クラウドを活用し、Google スライドに自分の考えをメモとして整理していくようにすることで、生徒は互いのメモをいつでも参照することができる。そのため、英語の学習に苦手意識をもつ生徒にとって、友のメモの整理の仕方を参考にしたり取り組みやすい。本単元以前の学習においても、スピーチのためのメモを整理する際に、友のメモを参考にしている様子が見られたため、本単元でもクラウドを活用し、他者参照ができる環境を設定する。

4 中学校学習指導要領との関わり

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。(話すこと[発表]イ)

5 単元の目標

相手に共感してもらえように、旭ヶ丘中学校に取り入れたいユニバーサルデザイン(UD)について、自分の考えとその理由などを整理し、まとまりのある内容を話すことができる。

6 単元の教科規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 疑問詞 to 不定詞と主語+be 動詞+形容詞 that などの意味や用法を理解している。 <技能> 旭ヶ丘中学校に取り入れたい「UD」について、疑問詞 to 不定詞と主語+be 動詞+形容詞 that などを用いて話す技能を身につけている。	相手に共感してもらえように、旭ヶ丘中学校に取り入れたい「UD」について、自分の考えとその理由などを話している。	相手に共感してもらえように、旭ヶ丘中学校に取り入れたい「UD」について、自分の考えとその理由などを話そうとしている。

記録に残す評価はパフォーマンステストで行う。ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。

Unit Goal: 旭ヶ丘中学校に取り入れたいユニバーサルデザインについて、聞いている人が共感してくれるようなスピーチをしよう。

—英3—

8 本時案 全 11 時間中第 10 時

(1) 主眼

旭ヶ丘中学校に取り入れたいユニバーサルデザインを伝え合う場面で、一人一人にとって必要な学び方を選択したり、友の発表の良さを全体で共有したりすることを通して、相手に共感してもらえるように、自分の考えとその理由を話すことができる。

(2) 展開

段階	◇Let's tell about "What UD is good in Asahigaoka JHS?"				
	○学習活動	予想される生徒の反応			教師の指導
導入	○友と発表し合うことで前時の学習を振り返り、通しをもつ。	A 生	B 生	C 生	これまで確認してきた視点を生徒の発表から、その良さを確認する。本の課題やその課題に必要な学習方法をスプレッドシートに入力するように声をかける。
		前時では、相手ができていることを中心にスピーチをした。友達には、If we have～.と「予想する」視点を取り入れていた。より共感してもらえるように、自分も真似してみよう。	前はスピーチの視点を1つずつ取り入れて内容を考えられた。もっと共感してもらうためには、「自分の経験」という視点をさらに加えていきたい。	まだあまり内容を深められていない。まずは考えと理由を伝えたい。メモを基に発表してみると、どう表現していいかわからないところがあるから、教科書で確認する。	
展開	○一人一人が選択した学び方でスピーチの練習をして発表の準備をする。	「予想する」視点を取り入れるために、友達の発表を聞いてみたい。教科書ではどのように表現していたか、見直してみよう。	「自分の経験」を伝えるためにどんな表現を使っているか、友達の発表を聞いてメモを参考に整理したりして発表しよう。	教科書で You can～. で「相手ができること」を表現していた。できることをメモに整理しよう。友達に聞いたり辞書で調べたりする。	学習計画を立てられていない生徒へ声をかける。
	○友と1回目のスピーチをし合う。 ○友の発表を聞き、良さを確認する。	We have to make more slopes in this school. If we make them, people in a wheelchair can walk around school and enjoy school festival together. 友達は最初に質問をしていた。友達がしていた質問や教科書を見直し、話しながら確認しよう。	We need an elevator in this school. It is good for everyone. We can go to our classes easily. 友達は When I～. を使って経験を話していた。自分もその表現を使って話したい。友達と発表し合いながら表現を確認しよう。	We have to reduce steps. You can walk safely. 友達は自身の考えを複数話していた。2回目のスピーチに向けて考えを増やして共感してもらえたい。友達のメモを見たり発表を聞いたりして考えの伝え方を確認しよう。	数名の生徒に発表を促す。聞いている生徒には、そのスピーチの良さを、「Speech Points」を基に振り返るように声をかける。
	○確認した良さを基に、再度自身のスピーチ内容を検討する。	一方的に話すより相手に質問をしながらスピーチをした方が共感してもらえるかもしれない。まずは、スピーチの最初に取り入れてみよう。	「自分の経験」がある方が、アイデアの必要性を感じられ共感してもらえそう。これから、課題はそのまま「自分の経験」にしよう。次は表現を確認してスピーチができるように友達と何度も声に出して練習する。	You can～. だけではあまり共感してもらえなさそう。さらに考えを加えていくために、どんな内容を話せばよいか、友達のメモを参考にしてみよう。教科書をもう一度見返して、繰り返し友達と練習しよう。	友の発表を聞き、課題を変える必要がある生徒は変えたり、さらに内容を深めたりして準備をする時間を設ける。
	○友と2回目のスピーチをし合う。	Do you see slopes in this school? We have to make more slopes in this school. If we make them, people in a wheelchair can walk around school and enjoy school festival together.	We need an elevator in this school. It is good for everyone. We can go to our classes easily. And when I have a heavy bag, elevator is convenient.	We have to reduce steps. You can walk safely. I think steps are dangerous for everyone.	ペアを変え、2回目のスピーチをする時間を設ける。
終末	○本時の学習を振り返る。	友達のスピーチを参考にしたら、自己課題を達成することができた。もっと自分の経験を入れたら、共感してもらえるかもしれない。	課題にしていた「自分の経験」を加えることができた。次は「質問する」視点に取り組んで共感してもらえたい。	前回よりも話す内容が深まった。しかし、共感してもらえないスピーチにするためには、他の視点を取り入れる必要がある。うう。	課題や、単元の目的から本時の学習の振り返りをスプレッドシートへ記入する時間を設ける。